

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

|        |       |                 |
|--------|-------|-----------------|
| 城北中学校区 | 校番 63 | 福山市立明王台小学校      |
|        | 最終更新日 | 2020年(令和2年)4月1日 |

I 福山市

|   |
|---|
| <p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&amp;倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p> |
|---|

II 中学校区

|   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| <p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては、取組の進捗状況を細かく把握し、課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。</p> | <p>児童生徒の現状</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果、小学校は県平均を概ね上回り、中学校は県平均程度となっている。また、校区共通で取り組んだことで、「あいさつ」、「地域行事参加」などの意欲は向上してきている。睡眠時間、学習時間の確保が課題である。</p> | <p>育成する力<br/>21世紀型“スキル&amp;倫理観”</p> <p>めざす子ども像<br/>(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p> | <p>知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性に学ぶ力 他社とかかわる力 社会貢献力 自己形成力</p> <p>自ら考え、判断し、行動する児童・生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校区合同研修における、授業研究および教科等部会の取組</li> <li>ICTを活用した授業実践および協議・交流の取組</li> <li>基本的な生活習慣や家庭学習の目安を示した校区スタンダードの取組</li> <li>合同行事・乗り入れ授業・「総合的な学習の時間」交流会の取組</li> </ul> |
|---|---|--|---|

III 自校

|  |  |   |   |   |                |
|--|--|---|---|---|----------------|
| <p>ミッション</p> <p>夢を持ち その夢を実現することを通して 社会に貢献できる 児童の育成</p>   | <p>育成する力<br/>21世紀型“スキル&amp;倫理観”</p>  | <p>主体的に学ぶ力</p>  | <p>思考力</p>  | <p>表現力</p>  | <p>他者と関わる力</p> |
| <p>学校教育目標</p> <p>自ら学び 豊かな心で たくましく生きる子どもの育成</p>   | <p>めざす子ども像</p> <p>生活体験や既習事項を基に、調べたり考えたりするなど、継続して新たな課題を見つけようとしている。</p>                                    | <p>より良い解決に向け、目的や意図に心掛けて論理的に考えようとしている。</p>   | <p>必要な情報を整理し、論理的に話したり書いたりするなどして、自分の考えを表現しようとしている。</p> | <p>初めて出会う考えにも耳を傾け、目標達成に向けて、共感しながら互いに学び合おうとしている。</p> |                |
| <p>現状</p> <p>〈児童生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準学力調査では、全国平均を上回った。</li> <li>学校のルールを守る児童が増加し規範意識が高まった。</li> <li>「無言掃除」「地域行事への参加」等、主体的に考え行動できる力を高めていく必要がある。</li> </ul> <p>〈授業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」児童の割合(「基礎・基本」定着状況調査アンケート)が、77.8%(県66.6%)である。今後も自分の考えをまとめて書くこと、考えを練り合い深めていくことに継続して取り組んでいく必要がある。</li> </ul> | <p>研究</p> <p>教科等 社会科 外国語活動</p> <p>主題・内容等 ともに考え 学び合う授業の創造<br/>～J(じっくり考える)H(はっきり表現する)K(くり返し挑戦する)を踏まえて～</p> | <p>めざす授業の姿</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自ら課題を発見し、課題解決をしている。㊦</li> <li>自分の考えを整理したりまとめたりして、それをもとにして協議して解決している。㊦㊦</li> <li>グループやペア等の活動を通して他者と関わり合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。㊦</li> </ol> |   |   |                |

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

| 年<br>目 | 中期経営目標                   | 重<br>点 | 分<br>類 | 短期経営目標          | 目標達成に<br>向けた取組   | 評価指標  | 中間評価(10月1日)   |                  |                  | 最終評価(2月末) |  |                  |                  |                  |      |  |
|--------|--------------------------|--------|--------|-----------------|--|---|---|------------------|------------------|-----------|--|------------------|------------------|------------------|------|--|
|        |                          |        |        |                 |  |   | □指標に係る<br>取組状況  | 加<br>点<br>評<br>価 | 達<br>成<br>評<br>価 | 改善方策      | □指標に係る<br>取組状況<br>◎短期(中期)経営<br>目標の達成状況 | 加<br>点<br>評<br>価 | 達<br>成<br>評<br>価 | 綜<br>合<br>評<br>価 | 改善方策 |  |
| 1      | 自ら考え学<br>ぶ児童(主体<br>性)の育成 | ★      | 新規     | 基礎・基本の学力<br>の定着 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・帯タイム(スキルタイム)で、漢字・ことば・計算問題に取り組む。</li> <li>・自ら課題を見つけて学習に主体的に取り組む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、算数の単元テストの通過率を、知識・技能90%、思考・表現80%以上にする。</li> <li>・「プリントを自分で選択して、学習に進んで取り組む」児童を90%以上にする。</li> </ul> |   |                  |                  |           |  |                  |                  |                  |      |  |
|        |                          |        | ★      | 新規              | 進んで掃除を<br>することができる<br>児童にする。   | 縦割り班掃除を<br>実施する。<br><br>(振り返りカード)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラス1掃除ができる児童を90%以上にする。</li> </ul>   |                  |                  |           |  |                  |                  |                  |      |  |
|        |                          |        |        | 新規              | 自ら生活目標を<br>守ることができる<br>児童にする。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会が課題を見つけ生活目標を設定する。守り方は、各クラスで話し合って決める。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区スタンダードのアンケートを活用して児童にアンケートをとり「目標に自ら取り組めた」児童を、90%以上にする。</li> </ul>                      |                  |                  |           |  |                  |                  |                  |      |  |
|        |                          |        |        | 新規              | 目標を持って体<br>力づくりができる<br>児童にする。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人目標を設定し、サーキットレーニングで課題改善に主体的に取り組ませる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの肯定的評価「サーキットで自分が伸ばしたい種目に一生懸命取り組んだ」100%「取り組んだ結果、伸ばしたい種目の記録が伸びた」80%にする。</li> </ul> |                  |                  |           |  |                  |                  |                  |      |  |

|   |             |         |                 |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---|-------------|---------|-----------------|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 1 | 教員の資質・能力の向上 | ★<br>新規 | 自ら考え学ぶ授業を創造する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• つけたい力を明確にした授業実践を行い、協議を行う。</li> <li>• ICTを活用し、児童が興味をもって取り組む授業を実践する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各学年、単元計画を立て授業実践する。(研究授業年2回以上)</li> <li>• 児童アンケートで「授業で考えることが面白い」を85%以上にする。</li> </ul> |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1 | 地域に貢献する学校   | 新規      | 地域とつながる教育活動を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 積極的に地域と関わるができる児童にする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域行事への参加(2回以上参加した児童を95%以上)</li> <li>• 児童アンケートで「地域の行事に参加して楽しかった」を90%にする。</li> </ul>   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

| [プロセス評価の評価基準] |  | [達成評価の評価基準] |                        | [総合評価の評価基準] |                 |                 |
|---------------|--|-------------|------------------------|-------------|-----------------|-----------------|
| 評点            | 評価基準   | 評点          | 評価基準                   | 評点          | 評価基準            |                 |
| 5             | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。   | 5           | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。   | 5           | 100%以上の達成度      | 十分に目標を達成できた。    |
| 4             | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。       | 4           | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。   | 4           | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。     |
| 3             | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 | 3           | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。  | 3           | 60%以上80%未満の達成度  | ある程度目標を達成できた。   |
| 2             | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。  | 2           | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。   | 2           | 40%以上60%未満の達成度  | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1             | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。      | 1           | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 | 1           | 40%未満の達成度       | 目標を達成できなかった。    |